

第47回放送教育研究大会四国大会高知大会 (一次案内)

----- 大会研究主題 -----

新しい時代を生き抜くため、豊かな心と自ら学ぶ力を育てる
放送・視聴覚教育の果す役割を推し進めよう

日時 平成24年11月2日(金)
場所 高知県高知市・高知県吾川郡いの町

幼稚園・保育所部会

会場校 いの町立伊野幼稚園
〒781-2116 吾川郡いの町柳町12

研究主題 「放送をとおして、子どもたちの遊びに広がりをもたせ、
豊かな感性とたくましく生きる力を育てよう。」

小学校部会

会場校 いの町立伊野南小学校
〒781-2124 吾川郡いの町八田2321

研究主題 「豊かな心をもって自ら学ぶ児童を育てるための放送・視聴覚教育をすすめよう。」

中学校部会

会場校 いの町立伊野南中学校
〒781-2124 吾川郡いの町八田2300

研究主題 「豊かな心と生きる力をはぐくむために放送・視聴覚教育を推進しよう。」

高等学校部会

会場校 高知県立高知南高等学校
〒780-8010 高知市棧橋通6-2-1

研究主題 「生きる力を育み、生徒の学びを支援する学校ICT化を推進しよう。」

特別支援学校部会

会場 いの町立伊野南小学校
(研究交流会分科会のみ実施)

研究主題 「主体的に学ぶ意欲をはぐくむ放送・視聴覚教育の有効活用を探る。」

全体会場

会場校 いの町立伊野南小学校
全体会 講演 「演題未定」 講師 未定

当日の日程

9:00	9:30	10:15	10:30	12:00	13:20	14:40	14:50	16:15	16:25
受付	公開授業	移動	授業研究会	昼食・移動	研究交流会分科会	移動	全体会講演会	閉会	
(会場) 伊野南小学校									

大会研究主題

「新しい時代を生き抜くため、豊かな心と自ら学ぶ力を育てる

放送・視聴覚教育の果たす役割を推し進めよう」

研究主題解説

1. 「新しい時代を生き抜く」という表現の基底にあるもの。

(1) 高度に発達した情報化社会の中で、様々な情報を自ら正しく選択・処理する態度や能力を身につけ、それを常に自己の向上と社会の発展のために生かしていくという資質の啓培こそ、新しい時代を生き抜くことの最大課題であり、その学習基盤を充実することが私たちの責任であると考えます。現在の社会は、科学技術、特にエレクトロニクスの著しい進歩により、コンピュータを始めとする様々な情報機器の導入や情報ハイウェイ構想などのように、極めて多様に複合化された情報環境へと大きく変わってきています。一般的に情報化社会とは「大量かつ多様な情報が社会に満ち溢れ、目を閉じ、背を向けようとしても、その影響を受けずにはいられないような社会」であるといわれています。このような特性を持つ社会で氾濫する多様な情報を確かに受け止めながら胸を張って生きていくことこそ、これから生きる人間の「生き方」の根源的問題であり、このような人間の育成を果たしたいと思っています。

(2) 子どもたちのすべてが、一生を通じて学びながら、豊かに生き抜こうとする姿勢と生活技術の体得を確実にする学習の充実こそがこれからの課題です。

21世紀はテクノロジーという視点からみれば、豊かなハードウェアに支えられたかつてない恵まれた時代といえます。今後はこの教育テクノロジーを積極的に活用して、学校のみならず、いつでもどこでも、あらゆる場所や機会をとらえて、絶えず学び続けていこうという意欲と意志、そして努力が大切です。

これからの社会の中で、生き生きと温かく、たくましく生き抜くことができる人間の育成のためには、改めて新しい学習を映像媒体・メディア特性、教育ネットワーク等とのかかわりの中で模索し、その学習基盤を充実すること、そして豊かに生き抜こうとする姿勢と生活技術を体得することへの支援を充実することが重要であり、このこともまた、私たちが今次大会の実践研究の基底におくべき新しい課題だと考えています。

2. 「豊かな心と自ら学ぶ力を育てる」という表現の基底にあるもの。

(1) 「豊かな心と自ら学ぶ力」を培うとは？

豊かなはずの社会の現実には、思いやりの欠如等、人間としての豊かな生き方に背を向けた諸現象の発現を許し、大きく問題を提起しています。

私たちはこのような学校（社会）病理の発生を許し、それを救えぬ「豊かさ」とは何かを直視し、反省し、映像媒体の持つ感情に訴え興味・意欲を喚起する働きや人間の生き方に心を響かせながら「生き方モデル」を提示する機能、そして応答的機能を持つメディアの活用を図ることにより、子どもたちの「楽しさ」「好奇心」「やる気」を醸成し、一人一人の持ち味を生かし、人間としての温かさ、たくましさを培う学習を基盤にすることで、豊かな心、自ら学ぶ力が育成され、伸長されるはずと考え、実践研究を進めているところです。

(2) 研究会が自ら築いてきた研究遺産を受け継ぐ

かつて私たちは「未来をきりひらき、たくましく生きる人間の育成をめざし、“発展する学習”を追及する放送教育をすすめよう」を研究主題として取り組んできました。

これは、「子どもたちの一人一人が環境に積極的に適応し、問題解決に積極的に挑もうとする知的探究心、すばらしい出会いに感動する豊かな心、それをより深め、広げるために必要な情報を選択・処理し、それを生活に還元して活用していく能力、さらに困難にひるまず徐々に自己実現を図っていこうとする熱意、それらを支える強靱な意志・体力・そして自己を受容し他者を尊重しながら、地域の中で毎日を懸命に生きようとする努力や熱意を体現していく過程の積み重ねによって成就し得る」ととらえ、このことを放送・視聴覚財の有効活用と関わらせながら研究成果を積み重ねてきました。

今次大会の基底にも自分たちが築いてきたこの視点と成果を研究遺産として確かに受け継ぎながら実践研究を進めています。